

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376100174		
法人名	社会福祉法人昭徳会		
事業所名	高齢者グループホーム小原安立		
所在地	愛知県豊田市沢田町座内22		
自己評価作成日	平成25年11月13日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2376100174-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・四季折々の自然環境に恵まれ、利用者が6名という少人数の家庭的な雰囲気の下で暮らしています。庭先の畑で野菜を共に育て収穫し、梅干し・らっきょ・干し柿作りなど利用者の昔ながらの知恵を活かすことも取り組んでいます。また、季節ごとに取り掛かっている貼り絵は、隣接の特養や地域の文化祭りなどの作品展に出展することで利用者の方の励みとなっており、このような取り組みにより利用者同士が助け合いすばらしい共存ができています。
 ・利用者の「思い」や「出来る事」を職員で共有しながら、利用者や職員が共に支え合って暮らしているホームです。
 ・今年度は、地域の催し物に個別で参加することや、家族との絆が深まるよう定期的に行事等に家族参加の機会を設けることに力を入れています。
 ・今年度は回想法の中でも、ミッケルアート療法の数値検証・評価に取り組み、昔懐かしい絵を見ることにより、他者と会話を築き上げ、認知症の緩和に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

回想法・学習療法の継続的実施を進めひとり一人の利用者に向き合う事に取り組んでいる。
 回想法として地域から提供された『鍋・釜・たらい・洗濯板・ラジオ・蓄音機・茶筆筒・飯台・古雑誌・ポスター』等がホールに展示されている。又今年からは古き時代の思い出を絵で表し、会話を引き出すミッケルアート療法を導入し、回想法の数値検証・評価に取り組んでいる。
 利用者や職員が連携を取りながら学習療法に取り組んでいる。『読み・書き』で歌の文について話をして行くと、普段何の返事も無い利用者もやりたい事好きな物をはっきり言ってくれる。
 この様に回想法・学習療法によりひとり一人の利用者に向き合う姿勢を行って来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・基本理念「わ」を基に、施設・個人目標を掲げ取り組んでいる。また、基本理念は誰もが見える場所に掲示している。 ・勤務に入る前と職員会議で、意識の共有を図るため理念を唱和している。	事業計画に、「独自理念『わ』」をコンセプトに、具体的な推進を図るを謳っている。理念が職員一人ひとりの日常業務における目標になる様に個人目標を作成し、実施方法を管理者と話し合っている。	職員に対する理念の周知は徹底されている。理念の実現をスパイラルアップするためにも、理念を展開した各職員の目標を掲げ、目標に向かって頑張っている姿を、家族を含めた周囲の方々が温かく見守ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の一員として暮らすと言う意識を持ち、地域行事への参加、小原ふれあいまつりや文化まつり、市の高齢者作品展にちぎり絵の作品を毎年出展し、地域の人たちと触れ合う機会を持つように努めている。	目標達成計画に、『地域行事の情報を社協・地元地区等から集め、月2回以上は参加する』を掲げている。運営推進会議議事録には、ホーム・地域の行事が、『時期』、『内容』、『場所』に分けて記録されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入所申込者や見学者から相談があれば、支援方法や必要な情報提供を行っている(ボランティア含む)。 ・特養と一体して、地域の集会所で高齢者の方々に、施設の取組みを説明し、回想法の実践を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の近況報告、サービス内容、職員研修報告、中央情勢について触れ、委員の方からの意見や要望があれば会議で検討し、サービスの向上に活かしている。 ・今年度から利用者代表を1名選出して、運営推進会議のメンバーに加えている。	地域包括支援センター・民生委員・老人会会長・利用者・家族・管理者・職員をメンバーとして、年間6回開かれている。利用者やサービスの実体を資料にまとめて会議を開催し、議事録も丁寧に記録している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・豊田市サービス介護向上連絡会等に参加し、意見交換や外部の情報を得ながら、自施設のサービス向上に努めている。また、行政も参加する会議で意見交流に努めている。 ・豊田市から派遣される介護相談員の訪問時には、ケアサービスへの取り組みの理解を図っている。	運営推進会議への地域包括支援センターの参加、介護相談員の受け入れ等によりホームの状況は役所窓口で理解されている。管理者は役所も参加する会議で積極的に発言し、役所との交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての具体的な行為を認識し、身体拘束についての共有認識を持ち拘束のない介護ができています。 ・利用者が外に行きそうな様子を察知した時には、さりげなく声を掛けたり、一緒に出かけ、安全面に配慮しながら本人の思いを支えている。	管理者・職員は身体拘束の弊害を十分に理解している。利用者一人ひとりの外出の癖や傾向を把握し、見守りに徹底して日中は開錠している。出て行く利用者には、職員が後からついて行き、行きたい所へ行く支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議等を通して、高齢者虐待や身体拘束に関する動画を見ることにより、決して対岸の火事ではなく、誰もがその側になりうることを認識し合い共有し、理解を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・過去に対象者がいたこともあり、支援は可能と思われる。 ・職員には資料配布し、専門知識として制度の存在を知り、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前に契約書や重要事項説明書を基に契約内容について利用者や家族に十分説明し、納得を得ている。 ・特に緊急時の対応、身体拘束の制限、費用面、解除権については理解を得られるよう、具体的に例を挙げて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・市の介護相談員を受け入れ、利用者の意見や不満を聴ける場を設け、運営に反映させている。 ・家族の面会時には気軽に意見を言って頂けるような雰囲気作りに留意し、出された意見要望はミーティングや申し送り時に話し合い反映させている。 ・意見箱を設置し、何時でも投書して頂ける様にしている。	日頃から職員に、全利用者の説明が出来る様に指導している。家族の訪問時には、誰が対応しても満足して頂ける説明をし、気軽に意見を言ってもらっている。その際に、毎日の様子が記録されている『介護記録票』に目を通して頂き、印鑑を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・常日頃から職員に声掛けをし、意見や提案が出やすい環境を作っている(施設内LANを利用し、直接管理者にメール発信ができる)。 ・意見や提案のある時には、話し合いの場を設け、サービスの向上に繋がる努力をしている。	管理者は、日頃から職員の意見・要望を聞く機会を多く持ち、職員は意見を出し易い環境にある。職員個々が目標を設定し、実施に当たり管理者と相談する等、管理者は職員の意向・要望を充分把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の内外の研修会への参加の支援を行い、スキルアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内外の研修会に、全ての職員が勉強する機会を設けている。また参加後は職員会議などで伝達し、復命書は全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市内の介護サービス連絡会や県内のGH連絡協議会での研修及び法人内外などに順次参加し、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面接で性格や生活状況を把握し、本人の不安を取り除き、新しい環境に早く無理なく慣れるように配慮している。 ・既に利用しているサービス提供者からの情報も活用し、また、契約段階で本人や家族の要望を聴くなど良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前後に家族とよく話し合い、利用者についての心の葛藤や経緯についてしっかりと聴き、家族の思いを理解しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族から相談を受けた際には、状態及び状況などを把握し、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案を出し、話し合いながらできることから迅速に対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員も利用者も一つの家族として、お互いが協働しながら共に支え合える関係作りをしている。 ・職員間で情報交換を密にし、利用者の意見を最優先に考え、それぞれの人生経験を生かせる働きかけに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・「介護記録、広報誌、うぐいす便り」などを活用し、本人の日頃の状況をこまめに報告している。 ・面会時には本人と家族がよりよい関係を築いていけるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・気軽に足を運んでいただくため、日々の暮らしが分かるように写真を壁面に掲示し、温かい雰囲気作りを努めている。 ・地域の交流館やふくしの里の催しに出かけ、交流の場を設けている。	地域の利用者が増え、『小原』の地名を聞くだけで嬉しくなっている。利用者の中に幼馴染みを見つけ、『小さい時、同じ学区だったネ』等と話が弾んでいる。家族への年賀状が途切れない様に、職員が手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりの性格や感情の変化を把握した上で、互いの関係が上手くいくよう職員が介入し、調整役として働き掛けることで、利用者が孤立することなく仲良く生活できている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後も家族との関係性を大切に、これまでのケアなどを情報提供したり、相談に乗る等継続性が損なわれないよう連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中や聴き取り調査などで、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員全員が利用者の立場に立ったケアを心掛けている。 ・日課アセスメントシートを活用して、本人ができることや、援助することなど意向を確認しながら取り組んでいる。	学習療法の『読み書き』で、話を広げて聞いていくと、普段何を聞いても応じてくれない利用者が、『やりたい事・好きな物』をはっきり言ってくれる。発見した内容は、介護ノートで職員間で共有している。	学習療法で掴んだ利用者の思いから、直ぐ実行できることは日常的に進め、課題を含んだ思いをケアプランを通して叶えてあげ、誕生日プレゼントにされる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前に本人や家族から生活歴や生活環境などについて話を聴き、職員全員が把握し入所後にはスムーズに支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の暮らしの中で、生活リズムの把握や定期的なバイタルチェック等を記録し、利用者の変化を見落とさないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画作成にあたっては、本人や家族等と話し合い、随時のモニタリングにより現状に即したチームケアができる体制を敷いている。	家族の来訪時に、『介護計画』、『介護記録票』を見せ、その際に意見を聞き取り、計画に反映させている。家族アンケートのト『ケアプランの説明』の項目で、全員の満足の回答からも良く説明している事が解る。	ケアプランに関しての介護記録の内容が、実施した結果のみの記載が多い。感情表現を含む利用者の生の言葉を記載し、ケアプランの見直しに、より多く反映させる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別に介護記録表を用意し、日々の暮らしの様子や、本人の言葉など細かく記録をするようにしている、又職員全員が確認し情報を共有できる「連絡ノート」を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族は決められた面会時間や予定された外泊日以外でも安心して変更できるよう、柔軟な対応に努めている。 ・隣接特養の行事にも参加し利用者の意見に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・避難訓練及び応急手当講習を通し、消防署の方にはホームを理解していただき協力を得ている。 ・運営推進会議のメンバーの方々や介護相談員の方々との情報交換を行い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の希望するかかりつけ医に受診する際、介護記録表、バイタルチェック表を準備し、スムーズな診察が受けられるよう支援している。 ・緊急時には、協力医療機関への受診が受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医の継続で、通院付き添いは家族で対応している。通院時には『介護記録表』を持参し、通院結果は家族から報告をもらって情報を共有している。緊急時には協力医療機関で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常生活の中で、利用者の健康面で気になる事を常に併設事業所の看護師に相談し、支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・家族やソーシャルワーカーと連携を取り、必要な情報を提供している。 ・職員の顔を見る事で安心する方もいるので、お見舞いに行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居契約前後に重度化した場合の対応に関わる指針をお渡し説明し、確認と同意を得ている。	主治医・家族・利用者・ホームで話し合い、『家族の思い』、『スタッフのやりたい気持ち』が揃えば、医療行為のないギリギリ迄ホームで看る考えである。その時、特養施設も対応先になる可能性があるため、入居時に特養の申込みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の速やかな対応については、マニュアルを分かりやすい所に準備し、職員間で常に確認し合っている。 ・全ての職員は、消防署の協力を得て、年1回の応急講習や内部の勉強会などで習得するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、災害を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。また災害に備えた備蓄品も確保している。 ・法人全体の総合訓練や、ピレッジ3施設合同による訓練を実施し、協力体制の確立に努めている。	防災訓練は併設特養と合同で、日中・夜間を想定して実施している。『防災+応急手当』、『避難訓練』、『点検訓練』等を何らかの形で取り入れ、毎月行っている。訓練から、夜間一人体制が課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生経験豊かな人として尊敬し、優しい言葉掛けやさり気ない見守りで、プライドや羞恥心に配慮した支援を行っている。特に排泄時の言葉掛けや対応には配慮している。	日頃から人生の先輩である事、人格を尊重する事を配慮しながらプライバシーを損ねない支援を行っている。特に排泄時・入浴時の言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常の中で利用者の発言に耳を傾け、本人が応えやすく選びやすいような声かけや働き掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な1日の流れは決まっているが、一人ひとりの体調に配慮しながら、それに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者一人ひとりの好みや、希望に合わせた服を選ぶよう職員がアドバイスしている。 ・理美容については、本人や家族の希望に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・配膳や下膳などを利用者と一緒にいき、また皆の顔が見えるよう同じテーブルで語り合いながら楽しく食事している。 ・食事中BGMを流したり、外食や希望の行事等に合う献立を取り入れている。	一人ひとりの『力量・希望』に合わせ、皮むき・配膳・食器洗い・食器拭き等に参加している。皆の顔が見える様に、職員も同じテーブルで同じものを食べ、語りあひながらの家庭的な食事風景としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人ひとりの体調と一日の水分摂取量を把握し、記録している。 ・カウンターにお茶入りの急須を置き、いつでも好きな時に水分が摂れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、毎食時の声掛けや見守り介助で、清潔保持を心掛けている。 ・毎日就寝前に義歯を消毒液につけて、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの状態を把握し、自尊心に配慮しながら、尿意の少ない利用者には、定期的に声掛けを行い、できるだけ失敗を少なくし、気持ち良く排泄できる機会を持つように支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。定時にトイレ誘導する等、タイミング良い声かけで、可能な限りトイレでの排泄を大切に支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の多いマンナンを使用したり、また牛乳や水分補給に心掛けたり、腸の働きを良くするために毎日テレビ体操や歩行訓練を積極的に行っている。 ・朝食前に温かいお茶を摂取できるよう準備している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・一日おきに入浴を実施し、ゆっくり楽しめるよう支援している。また、入浴を拒否される利用者には、時間の変更や声かけの工夫をしている。	隔日を基本に、利用者の体調や希望に応じた入浴支援を行っている。中には一日に2回入浴する利用者もいる。入浴拒否の方には無理強いせず、声かけやタイミングに工夫をして風呂場まで誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・なるべく日中の活動を促し生活リズムを整え、夜間にゆっくり良眠できるよう支援している。 ・一人ひとりの生活を考慮し、個別に休息を取り入れている。 ・布団を干すなど夜間良眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの薬の内容についての説明書をファイルに保管し、職員全員が薬の目的、用法、用量、副作用について把握できるようにしている。 ・薬の変更時には、看護師に伝えると共に、連絡ノートに記載し申し送りを共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりの得意な分野を活かし、食事作りや梅干しやラッキョウ、干し柿作りなど利用者の経験や知識を発揮する場面を作っている。 ・外出やホーム内、地域の行事などに参加し知人に会い触れ合う事で楽しく生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・一人ひとりの希望に添って外食や買い物、ドライブに出掛けられるように支援している。 ・積極的に日帰り旅行等の外出を取り入れ、絆が保てるよう家族にも声掛けし、参加の協力を募っている。	『天気の良い日は出来るだけ外出を』の思いから、ビレッジ内の散歩・外気浴等を行っている。家族の協力を得て、さらに併設施設から車を借用して、季節毎の花見(梅・土筆取り・桜・つつじ・コスモス・紅葉等)に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人や家族と相談の上、一人ひとりの能力や希望に合わせて金銭管理の支援に取り組み、外出などでお金を支払う機会を持つことができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙や年賀状、暑中見舞いを出すための支援を行い、大切な方との連絡を取れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フローアの飾りつけや家具の配置などは利用者が落ち着いて安全に生活できるよう考えている。 ・中庭やコーナーには季節の花を植え、身近な所で四季を感じる事ができるよう工夫をしている。またコーナーからは周囲の景色が見え穏やかに過ごせる空間となっている。	利用者が多くの時間を過ごす畳の部屋を備えるリビングには、テレビや全員の顔を見ながら食事ができるテーブルがある。中庭やコーナーには観葉植物が多くあり、ソファや椅子を用意し、一人で過ごしたり仲良い同士でゆったり過ごせる空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・コーナーにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でゆっくり過ごせるスペースを作っている。 ・利用者が創られた作品をその都度入れ替え、居心地の良い空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具類、写真や思い出の品が持ち込まれ、利用者が個性的で居心地良く暮らせるよう配慮に努めている。 ・温かい雰囲気をかもし出せるように努めている。	大きな家具の持ち込みは不要な、備え付けの収納スペースがある。椅子やテレビ等の使い慣れた家具・家族の手紙・写真や思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室は利用者の生活歴そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内はバリアフリーで、トイレや廊下には手摺の設置を行っている。また、一人ひとりの力を見極め、居室の入口には、名札や本人の作品等で目印を付けるなど物の配置に配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 20	地域の生活圏から離れているため、馴染みの人達を施設に迎え入れることは難しくなっている。また重度化が進み、思うように外出ができなくなっている。	外部との交流の機会を作る。 (個々の希望に沿う外出を企画する中で、地域の方々との親睦を深める)	地域行事に関する情報を社協、地元地区等から集め、月2回以上は、地域行事に個別に参加し、地域の方々と触れ合う場を設ける。法人内の保育園や地元こども園、小原学園施設内学級との交流の機会を設ける。	12ヶ月
2	29 34 35	昼夜を想定した、グループホーム単独での避難訓練は、十分ではない。	災害対策に関しての意識向上を図る。 (避難訓練等を単独で実施し、有事に対応出来る防災力を備える)	一人勤務における昼夜の防災訓練、避難訓練を定期的実施する。また備品(ランタン、懐中電灯、缶詰等)の準備、点検を定期的に行い、緊急時に対応できるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。